いきいき
まえばし人

世界こどもハイクコンテスト日本大会で大賞

品川　瑞華さん　10歳
若宮町三丁目

被災地への思いも込めました

「打ち上がる　花火につられて　笑顔さく」が、日航財団主催の第12回世界こどもハイクコンテストの日本大会で、最高賞である大賞10句の中の1つに選ばれた。共通テーマのもと、母国語で詠んだ俳句を手描きの絵に載せた作品を募集しているこのコンテスト。国内外の15歳以下を対象としていて、国や地域ごとに大会が行われている。ことしのテーマは「お祭り」。今回の日本大会には700を越す作品が寄せられた。

「東日本大震災の被災地で花火が打ち上げられたという話を聞き、それを見てみんなが笑顔になった様子を表現しました。一日も早くみんなが明るい気持ちになれる日が来てほしいという願いも込めています」

俳句を始めたのは3歳のとき。小林一茶の句を聞いて面白いなと感じたことがきっかけだという。普段から思いついた句を書き留めておくようにしていて、コンテストにも積極的に応募。同大会では3大会連続の大賞受賞となった。

「何度も大賞をもらえると思っていなかったのでとてもうれしいです。両親もびっくりしていました。これからも俳句を続けていきたいです」

現在、群馬大附属小に通う4年生。動物が好きで、家では猫やうさぎ、金魚などを飼っている。本を読むのも大好きで、動物が出てくる本を好んで読むという。

「長編の物語をよく読みます。幸せな結末のストーリーが好きです」

海外の受賞作品も参考にしているという品川さん。これからもみんなが幸せになるような句を詠み続けてほしい。

未来への贈りもの　本市収蔵作品

山口薫　『沼のある牧場』 昭和39年
油彩・カンバス（105・6㌢×255・5㌢）

市役所の庁議室に、群馬を代表する画家、山口薫さん（明治40年―昭和43年）の作品が掛けられています。横長の画面中央に、菱形の沼が大きく配され、その周辺を木々や家々が背景に溶け込むように描かれています。右下には、木炭の細かな線と色を幾重にも重ね合わせて表現した馬が4頭います。

山口さんは、現在の高崎市箕郷町の旧家に生まれました。東京美術学校（現・東京藝術大）西洋画科を卒業後、フランスに留学します。帰国後は、自由美術家協会やモダンアート協会を結成し、作品を発表。東京藝術大教授として後進の指導にも力を注ぎました。

抽象と具象の間に独自の叙情性を確立し、詩情豊かな作品群は、国内で数々の賞を受賞し、現代美術の国際展覧会であるヴェネツィア・ビエンナーレにも出品されるなど、国内外で高い評価を受けました。

後期に制作された本作品は、絵具をかなり薄く塗り、かすれたマチエールを見せます。作品の中に頻繁に登場する馬や沼は、ふるさとの思い出と強く結びついており、幻想的な世界を作り出しています。

問い合わせは　文化国際課☎898―5825

クローズアップ

前橋の文化を支えた30年

３月４日、市民文化会館で市文化協会の「創立30周年記念のつどい」を開催。文化活動における功労者に感謝状が贈られた後、バレエや民謡、八木節などの発表が行われました。日頃の練習の成果を披露した会員の姿に、会場からは大きな拍手が送られました。

鳥たちの冬の生活をのぞく

２月26日、嶺公園で野鳥観察会を開催しました。身近な野鳥に親しみながら自然を楽しむこの催しに、市内外から56人が参加。日本野鳥の会会員の説明を受けながら園内を散策し、シジュウカラやセグロセキレイなど30種以上の野鳥を観察しました。

手軽に作れる前橋の味

前橋プラザ元気21で２月29日、新まえばしtonton汁講習会を開催。本市の豚肉料理・まえばしtonton汁を手軽に食べられるよう作られた簡単なレシピを基に実習を行いました。実習後はみんなで試食。参加者からは「具だくさんでおいしい」と大好評でした。

災害の時にできること学ぶ

３月３日、消防局で消防ふれあい広場を開催しました。訪れた家族連れは、煙体験や初期消火、応急手当などのコーナーで、災害が起きたときの対応方法を学習。放水体験では、消防ポンプ車のホースを握り、火元に見立てた目標物に向かって放水を行いました。